



時中だより

令和5年の漢字

結



時津町立時津中学校

令和5年度学校だより15号

令和5年9月1日発行

文責：校長・副校長

8月31日平和集会を行いました

8月9日に予定されていた平和集会が台風接近のため中止となりましたので、昨日、平和集会を行いました。テレビ放送での実施となりました。

司会進行は、3年生人権委員の林田鳳晴さんと内野澪さんです。相川海心さんが開会宣言を行った後、各学年発表を行いました。

テーマは、1年生は「戦中戦後の長崎」、2年生は「戦中戦後の日本」、3年生は、「平和のためにできること」です。各学年の代表が練習やリハーサルを重ね、緊張しながらもしっかりと発表しました。それぞれの学年の平和に対する思いが伝わってきました。

そして、生徒会から平和宣言（裏面参照）が出され、人権委員長の中村美優さんのあいさつと早瀬川響さんの閉会宣言で無事に平和集会が終了しました。

各学年充実した平和学習となり、大変良い集会となりました。委員長の中村さんをはじめ、人権委員会のみなさん、生徒会のみなさん、各学年発表代表のみなさん、本当にありがとうございました。

さて、平和学習にちなんだ話で、だいぶ前ですが、新聞にこんな記事が載っていて話題になりました。

「大阪の修学旅行生が語り部さんに、聞く態度を注意され、暴言を吐いた。」

その暴言とは「死にぞこない」でした。語り部さんはショックを受け、しばらく語り部の仕事ができませんでした。「自分が生き残ったのは悪い事なのか…」と。しかし、全国の方から励ましをもらい復帰したと聞いています。

なぜ、そのようなことが起きたか考えてみました。やはり、「知らない」ことがそうさせるのだと思いました。もちろんその生徒も修学旅行前に大阪で学習してきていると思いますが、その生徒が真剣に聞いてないのか学習が浅いのか…戦争の恐ろしさや原爆で苦しんできた人のことが分かっていれば、そのようなひどい言葉を言うことはなかったと思うのです。

それ以外にも原因はあると思いますが、「無知」が人を傷つけることが多々あるのは現実で

す。だから、しっかりと学習して「知る」機会を増やすことは人を傷つけない、優しい人間性を培うことにつながります。そして、このことは、平和学習に限ってのことではないと思います。

毎年恒例の平和集会ですが、その集会を意味あるものにするには、心から学ぼう、平和について考えようという心構えが必要です。今回の平和学習と発表会で「知る」ことが多かったと思いますので、その知識が日頃の生活に生かされるよう、平和宣言を心に刻み、生活していくればいいです。

そして、私たちが、若い世代に歴史を引き継ぎ、二度とこのような悲惨なことが起きないよう、大人の私たちも、そして生徒の皆さんも自分たちのできることをしっかりとやっていける時津中学校でありたいです。



【司会】



【開会宣言】



【発表】



【平和宣言】



【委員長挨拶】



【閉会宣言】

【9月の日程】

- 9/1(金)始業式、学級委員任命式、専評会（学級・全校）
- 9/4(月)専評会報告TV
- 9/5(火)県・九州大会報告会
- 9/18(月)敬老の日 休日
- 9/22(金)時津町教育委員会指定研究発表会
- 9/25(月)学級専評会
- 9/26(火)全校専評会
- 9/27(水)専評会報告TV
- 9/28(木)3年生実力テスト、
- 9/29(金)3年生実力テスト、合唱リハーサル
郡駅伝選手激励会

★3年生実力テストファイト(*^*)v

★お弁当の日はございません！！

9月1日は防災の日です！

令和5年 時津中学校 平和宣言文

1945年8月9日11時2分。今から78年前の暑い夏の日、長崎に原子爆弾が投下され、約7万4千人の尊い命が、それと同時に亡くなつた方々それぞれの夢や希望が、一瞬にして奪われました。また、今なお、原爆の後遺症に苦しめられている方々や、心に深い傷を負われている方々もいます。その何十年にも及ぶ、心身の不自由、偏見や差別、大切な人を失った深い悲しみと苦しみを思うと、私たちの胸は締め付けられます。そして、核兵器は78年経った今も、被害者の命や、心、暮らしを脅かし続けています。核兵器と人類は共存すべきではありません。私たちはこれまでの平和学習で被爆証言交流講話や戦争被害の実態などのお話を聞き、学習してきました。被爆地長崎に生まれ、被爆者の声を聴き、想いを引き継いだ私たちは、このことを必ず後世に伝えていかなければなりません。

世界中で新型コロナウイルス対策が緩和され、人と人との交流が再開し、笑顔が見られるようになりました。また、G7サミットが被爆地広島で行われ、各国の首脳が原爆資料館を訪れ、悲惨な被害を認識するなど、世界平和へ一歩前進しています。一方で、今もなお続いている紛争や内戦があり、罪なきたくさんの人々が命を落としています。また、私たちの身近でも、いじめによる自殺や、人が人の命を奪う事件に関するニュースが後を絶ちません。平和な世界はまだ完全に築かれてはいないのです。「自分には関係ない」と目をそむけるのではなく、どのようにすれば世界が平和になるのか自分の意見をもち、身の回りの友達や身近な人たち、世界の人たちと語り合い、支え合っていかなければなりません。あなたは、今、人の痛みがわかる心をもっていますか。周りの人と支え合うことができていますか。自分の心に問いかけてみてください。今日から私たちにできることは、友だちを思いやり、誰かの心の痛みに気づき、そして、隣にいる人を大切にしていくことです。高校生平和大使の取組の中にこんな言葉があります。「微力だけど無力じゃない」。私たち一人一人の力は、『無力ではない』はずです。身の回りの小さなことから争いを減らしていきましょう。

今から、私たちが眞の平和を築いていくために時津中学校平和宣言として三つのことを宣言します。（全員起立。私たちの言葉に続けて復唱してください。）

一つ、被爆者の方々の思いを引き継ぎ、後世へ伝えること

一つ、人の痛みがわかる心をもち、周りの人に思いやりをもって接すること

一つ、困っている人がいたら、自分にできることを探すこと

今、ここに宣言した三つのことを時津中学校平和宣言文とし、毎日を一生懸命に生きていくことを誓います。

令和5年 8月9日 時津中学校生徒会